

【団体名】西三河野生生物研究会

【事業名】「夏休み親子教室2014」

【事業の目的】生き物の研究者から講演を聴いたり、実験・実習などを経験したりすることから、身近な地域の自然や生き物などの様子について知り考える機会とする。

【実施内容】

講座 第1日目 8月2日(土)

○「昆虫の話」

大平仁夫先生(本研究会顧問、三河昆虫研究会会長)

本年度も、コメツキムシ等の分類研究で有名な大平先生に講演をしていただいた。地球は「昆虫の惑星」といわれるほど、昆虫類は種類が多い。その昆虫たちが繰り広げる生き残りをかけた巧みな戦略や、天敵たちとのかけひきなど、その不思議な生態についてお話いただいた。

○「探してみよう!身近な発光生物」

大場裕一先生(名古屋大学大学院)

著書「ホタルの光は、なぞだらけ」は、第60回青少年読書感想文コンクールの中学校の部の課題図書になっている大場先生に今年も発光生物について講座をおこなっていただいた。ホタルミミズや発光菌糸など、身近な発光生物の探し方と調べ方を説明して、そのふしぎやおもしろさを紹介していただいた。今年も乾燥ウミホタルを使ったルシフェリンの発光実験を行い、参加者が感動した。

○「セミの抜けがらからわかる都市環境」

金田吉高先生(本研究会幹事、三河昆虫研究会)

夏の生き物の代表のひとつセミ類。種類で好む環境が異なる。セミの種類やセミの抜けがらからわかることについて、標本やスライドを使ってお話いただいた。

○「植物標本の作り方」

堀田喜久先生(本研究会副会長)

植物や自然環境を理解するために、植物の標本を作ることがとてもよい方法の一つである。植物標本を作る意味やその価値、具体的な方法について、実際の植物を使って実演していただいた。

講座第2日目 8月3日(日)

○「ウニの骨格標本の作り方」

今泉久祥先生

海岸で見かける打ち上げ物の中に見られるウニ類の骨格についての説明や、簡単にできるウニの骨格標本の作成方法について実習を行った。

○「調べてみよう！かわいいカエルの体のしくみ」

島田知彦先生（愛知教育大学）

身近なカエルについて、詳しく説明をしていただきました。今年も先生が研究室で飼育しているナガレヒキガエルを会場にもってきていただき、動くものがあると口に入れるようすを、実際に餌やりとして観察させていただいた。

○「スライドショー安城の野鳥」

杉山時雄先生（本研究会幹事西三河野鳥の会）

野鳥の生態写真で有名な杉山時雄先生に、安城で見られる野鳥のスライドショーを行っていただいた。ちょうど訪れていた一組の親子が野鳥に関心があるということで、先生に質問をしながら視聴していた。

○「ゾウリムシの飼い方」

青木舜先生（本研究会幹事）

青木先生が、岐阜県郡上白鳥の水田で得たゾウリムシを使って顕微鏡で観察実習を行った。スライドなどを交えて、胃腸薬を使った意外な殖やし方や、採集の方法などを教えていただいた。

○「生き物ペーパークラフト」

河合倫恵先生（安城市立安城中部小学校）

今年も簡単にできる生き物のペーパークラフトを紹介していただいた。色紙を折って切り込みを入れて開くと、虫や花などの形ができあがる。作った作品を、ラミネーター処理をして、そのまま持ち帰りもできて人気があった。

○コンデジで撮れる顕微鏡写真

小鹿 亨（本研究会事務局、安城市立梨の里小学校）

水田や大池から採集してきた水を使って、顕微鏡で観察した。ミジンコやアオミドロなど、小さな生き物たちの観察方法から、コンパクトデジカメで顕微鏡写真を撮影する方法の実習を行った。生きたケイソウが、顕微鏡の視野の中を這い回るようすは参加者に好評だった。講座以外にも次のような展示やコーナーを開設した。

○生態写真の展示コーナー

いろいろな生き物の生態写真を展示しました。青木先生の水生昆虫、緒方清人副会長や杉山時雄さんのクモやフクロウの生態写真も展示しました。

○「三河地方の田んぼのカエル」

島田先生（愛知教育大学）の講座にあわせたポスターで、ナゴヤダルマガエルやツチガエルなど、絶滅が心配されるカエルについても、分布や生態が詳しく書かれている。

○世界と身近な昆虫展

山崎隆弘先生（三河昆虫研究会副会長、本研究会幹事）

今年も大型ドイツ標本箱で、約30箱を展示した。特に大平先生からは、スズメバチなど、身近で危険な昆虫類の標本を出していただき、講座の中で説明していただいた。他にも金田先生が出品した珍しいセミ類や日本産のクワガタムシ類などの標本、山崎先生の大きくて美しいトリバネアゲハや美しい甲虫から、三河地方に生息する身近な昆虫の標本を展示した。山崎先生から来場者に、昆虫類の特徴などをわかりやすく説明していただいた。

○哺乳類の頭骨展示

天然記念物の日本カモシカをはじめ、外来種ヌートリアの頭骨標本を展示した。ウシやウマの大きな頭骨は圧巻であった。

○青木先生の夏休みの研究相談コーナー

夏休みの研究についての疑問や質問に、水生昆虫の研究者・青木先生が相談にのっていただいた。



【成果・課題】

内容

今年度も多数の会員の参加で、とても充実した講座や展示を行うことができた。参加者には生き物や環境に興味を持ってもらうことができたと考えている。

会場

成果・課題交流センター2階のホールを使用できたので、大きな部屋の中で運営が行いやすかった。今回会場に使用した安城市市民交流センターは、昨年度の秋葉公園のような観察や実習に使えるフィールドがないため、ほぼ全てが室内での活動になった。屋外での観察などとセットで行うことで、よりわかりやすい講座になることが期待できる。

参加者・時期

親子での参加があった。実施した期日が、恒例の「安城七夕」や安祥中学校の安城選手権（水泳大会）などの大きな行事と重なったため、なかなか来場者を増やせずに、講座や展示を担当した会員に申し訳がなかった。小、中学校が夏期休業期間、特にお盆前まではいろいろな行事、イベントが多い。講座内容をそれぞれの課題研究などに反映できるように配慮すると、この期間の中でより行事が少ない日程を、会員や会場とも相談して検討する必要がある。

その他

市民活動課からのご配慮で、各小中学校が夏休みに入る直前に、案内文書を安城市教育委員会の文書配付ルートで市内各小中学校へ配付した。次年度は市教育委員会の後援を、事前に得ておくようにしたい。また、早期に講座内容を決定して、プログラムを決めることが大切である。講座担当から参加人数の問い合わせを受けることがあった。参加しやすさを考慮して、事前の申し込みをとらずにきた。講座等準備をする上で数がわからず不都合があった。次回からは、事前の申し込みも検討していきたい。